

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391400068		
法人名	社会福祉法人順和会		
事業所名	グループホーム ひのおか由紀の里		
所在地	熊本県阿蘇市赤水無田ノ上1894番地1		
自己評価作成日	平成26年3月6日	評価結果市町村受理日	平成26年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成26年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

慣れ親しんだ雄大な阿蘇の山々に囲まれた中に開設して3年、社会福祉法人として安定的な生活支援提供を基本に、ご家族の『穏やかで、落ち着いて暮らしてくれれば…』の思いに応えられるよう『傾聴・共感・受け入れる』対応に努めています。また、日々の取組みや考え、事故報告にいたるまで情報を開示することでの信頼される事業所。そして、入居者の皆さんがご家族、地域、行政等との関わりを継続できるような橋渡しなど、様々なニーズに対応、実践できる事業所作りを目指しています。この地域の開業医でもある法人理事長が散歩途中に訪問され「変わったことはないかい？」と声をかけていただくなど、事業所全体の雰囲気も良く、それが入居者の皆さんに安心感を与え、スタッフのやりがい、事業所のチームワークにも繋がっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所時に職員が作り上げた理念は三年の月日の中にしっかりと息づき、入居者の生活により良い形で反映され、安定した支援体制となって表出している。「先ずはやってみよう」のコンセプトをもとに、春の山菜採り・初夏の新緑・秋の紅葉・冬のゆきだるま作りなど、阿蘇ならではの普段の生活を送ってもらおうと一人ひとりの職員が考え、企画したプランが実現し、共に笑い・共に喜び・共に励まし合う日常が展開されている。素材があっても行動に移さなければ無意味であることを胸に秘めた職員の「今日は〇〇をしよう!」の意気込みが来訪者に充分伝わる一日であった。ホームのこれまでの取り組みが推進会議を通じて地域代表者の信頼するところとなり、地元の協力や温かな支援が入居者の生活を後押しし、馴染みの行事への参加や地域資源を活用した外出、散歩中の近隣者との会話に繋がっている。また、医療機関を母体とするホームは日常の医療支援や緊急時対応が確立し、入居者・家族の安心となっており、今後も介護と医療が充実したホームとしての展開に注目したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに〇印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に〇印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	〇	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	〇	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	〇	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	〇	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	〇	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	〇	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	〇	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	〇	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	〇	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	〇	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	〇	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	〇	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	〇	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391400068		
法人名	社会福祉法人順和会		
事業所名	グループホーム ひのおか由紀の里 根子岳ユニット		
所在地	熊本県阿蘇市赤水無田ノ上1894番地1		
自己評価作成日	平成26年3月6日	評価結果市町村受理日	平成26年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成26年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

慣れ親しんだ雄大な阿蘇の山々に囲まれた中に開設して3年、社会福祉法人として安定的な生活支援提供を基本に、ご家族の『穏やかで、落ち着いて暮らしてくれれば・・・』の思いに応えられるよう『傾聴・共感・受け入れる』対応に努めています。また、日々の取組みや考え、事故報告にいたるまで情報を開示することでの信頼される事業所。そして、入居者の皆さんがご家族、地域、行政等との関わりを継続できるような橋渡しなど、様々なニーズに対応、実践できる事業所作りを目指しています。この地域の開業医でもある法人理事長が散歩途中に訪問され「変わったことはないかい？」と声をかけていただくなど、事業所全体の雰囲気も良く、それが入居者の皆さんに安心感を与え、スタッフのやりがい、事業所のチームワークにも繋がっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時にスタッフと話し合いを行い、「スタッフ自身が入りたいホームとは」「ホームに求める役割は」など、より具体的な意見を出し合った理念を継続して日々の生活支援の指針としている。	理念4項目、1、あたたかみのある、笑顔のある里、2、安心とやすらぎのある里、3、その人らしい暮らしを大切に作る里、4、家族と地域に身近な里、を開所時からのホームの指針として室内に掲示し、職員がケアに迷ったときの道しるべとしている。理念は本年度入職した職員へも文書にして手渡され、ホーム広報誌「由紀の里だより」に毎掲載して家族や関係者に紹介し、推進会議などで地域へ向け啓発を続けている。職員の理念に対する思いは強く、一人ひとりの支援の根底にあることが聞き取りからも推察された。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時などの日常的な挨拶から、地域の方から声掛けや会話を交わすことなども増えてきている。開設以来地域行事への参加をとおり、関係者や地域の方々との顔が見える関係作りに努めている。	開所時から地域との連携の重要性を理念に謳っており、3年となる節目の年に出来るだけ地域に出かけたいとする姿勢が、地区の清掃活動への参加や、老人会との交流、正月行事「どんどこや」見学に現れている。推進会議に参加する地域代表者の口添えで、夏祭りの子供神輿が来所し入居者に笑顔をもたらす、地元保育園児との合同の七夕作りや散歩中の近隣者との挨拶など、入居者が人々と触れ合う機会を普段の生活の中に取り入れている。また中・高校生福祉体験を受け入れ地域貢献にも寄与している。	小さな子ども達との触れ合いは入居者の生活に張りや喜びをもたらす、楽しみにされているようである。今後は交流のある地元保育園にこちらから出向くような機会を作り、相互交流に繋がる取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを通して、介護保険制度に関する説明や、高齢者施策の現状を行政から話をさせていただいたりする機会を設けている。地元高校の福祉科実習受け入れ等、人材育成についても積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の暮らしの紹介や事業所の役割、特性を知ってもらい地域活動に生かしていただけるよう、会議の参加者に働きかけを行っている。また家族参加型の会議を開催し積極的に情報開示を行い、開かれた透明性のある運営に心掛けている。	管理者は推進会議の案内状を行政担当者に直接手渡し、地域の代表者にはそれぞれ郵送により参加を依頼している。年度初回はネーミングをゆきの里「かたろう会」と題して全家族と入居者が参加して外部評価の結果報告や、1年間の入居者の表情をパワーポイントで紹介し、家族との意見交換の場としている。通常の会議は行政や地域代表者が参加し、初回同様、外部評価の意義について説明して参加者からの質問に応じ、地域行事の情報が入居者の外出に繋がっている。外部からも質問が多かった、要介護申請から認定までの一連の流れについて説明するなど有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での報告や入居者に関する、各制度担当者との連絡などを通して連携、関係強化を図っている。	推進会議への行政への参加時にはホームの取り組みを発信し、担当者から意見や提案を受けている。また、アクシデントについても詳細に報告することで透明性を図り適切なアドバイスを得ている。ホームは行政への書類提出について、法人の考えである早急な対応を業務の重要点と位置づけ、必要書類の提出には早めはやめに応じることで行政からの信頼にも繋がっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる具体的な行為を行動指針に明記し事業所内にも掲示している。入居者が不快に感じることも含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の具体的な行為をホーム内に掲示し、研修会で職員の認識を統一している。外部のリーダー研修に参加した職員の復講後に職員のアンケートを取ったり、「ちょっと待つて」の一言も拘束になるとして、具体例を出しながら入居者が何をしようとしていたのか、その背景を紐解くことが大切だとしている。誰が聞いても不快に思うような言葉遣いや表現についても「あってはいけないこと」として会議の中で更に掘り下げた話し合いを実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待となる行為を行動指針に明記し事業所内に掲示している。また、法令で定めてある行為のみでなく、言葉使いや態度など些細な事の積み重ねが虐待につながっていくことを理解することが虐待防止につながると考える。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人に対して、日頃の状況などについて、財産管理のみならず、身上監護の観点からも随時、報告、相談を行っている。権利擁護や成年後見制度の研修会にも参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に事業所の体制や医療連携、看取りについての方針説明などを行っている。また随時相談を受け付け説明できる体制に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	様々な機会に意見、要望を受け付けられるようにしている。意見や要望は、会議での報告や申し送りノートで周知し改善できることについては早めの対応に心掛けている。	何気ない普段の会話から入居者の希望を聞きとり、表現困難な方へは生活の中で見られるしぐさや表情から推察し対応している。家族が集まる機会や面会時には意見や要望を出してもらうよう働きかけ、同時に入居者の日頃の思いを伝える場としており、家族と相談の後、居室へのテレビ導入が実現している。家族が相談・苦情を申し出る機関として、ホーム責任者や公的機関を重要事項に明記し、更に第三者委員を設置して公正な対処を謳っている。	時間的な行き違いから家族に不快感を与えたことについてホーム全体で検討し、再発防止と今後の対応を家族に説明するなど改善が図られており、今後も家族の信頼に繋がる対応が期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催しているケア会議や業務改善会議については、スタッフからの意見を聞き取る機会として捉えており、前向きな意見や提案は、まずやってみることを基本としている。	法人代表者は自身の散歩中に気軽にホームに立ち寄り、入居者や職員の様子を確認している。職員は業務改善会議で必要な物品を提案し、本年度は食器乾燥機やシャワーキャリーなどが新たに購入されている。会議では職員の日頃の気づきや意見を何か一つは発言してもらうよう働きかけ、出された意見を運営に反映させている。ホーム内は職員が意欲を持って仕事に取り組む環境にあり、希望休などにも十分対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ個々の経験や能力、働き方に応じて役割を分担し、スタッフの心身の健康や安定が質の良いケアに繋がることから、働きやすい落ち着いた職場環境となるよう心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の協力のもと、個々の経験や知識などに応じて、認知症関連研修はもとより事業所内外研修への積極的な参加支援によるスキルアップや新入職者を対象とした研修会も開催されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的な地区連絡会の勉強会や意見交換会への参加と法人内のグループホームとの情報交換、交流に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境に馴染んでいただけるよう、入居者本人の思いや要望に傾聴・共感の姿勢で関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より何でも話しやすいような雰囲気づくりを行い、不安や要望を聞き安心感を与えることが初期段階での信頼関係構築としている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族、入居以前に利用していた事業所・病院からの情報を踏まえ、状況を把握した上で他のサービス事業所を紹介するなど必要としているサービスが提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を営む上で家事や活動など実施し、感謝の辞を述べ、大切な存在であることを認識してもらうことでの関係性の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加型の行事などの計画や面会依頼など実施することで入居者が家族と寄り添えるひとときを確保するための働きかけを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の関係性を大事にし、継続して関係が保たれるよう面会をとおして、また実際に出かけられるように支援している。	家族の面会時には入居者の現状を共有して、ゆっくり過ごしてもらうよう声かけをしている。入居者が自宅にいた時からの馴染みである地域の神社へ「お参りにいきたい」との、希望を受けて出かけたり、還暦などの節目の年にも参拝している。自身で小遣いを管理される入居者が近くの商店で買い物を楽しみ、山菜採りを懐かしむ入居者とドライブを兼ね草千里の散策を計画するなど馴染みの外出を支援している。長年の生活習慣からテーブルの側面まで拭きあげる入居者の行為も身に付いた習慣として大切に捉えており、日々の生活の中で活かせる場面を設定している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段過ごす場所であるリビング内で気心の知れた方同士、居心地の良い環境づくりに努めている。交流が積極的でない方もおり、スタッフが橋渡しをすることで孤立することがないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所や医療機関へ転居及び入院された入居者が新しい環境での生活が円滑にいくように、その方の生活歴や状態などの情報を伝えている。退居後などでも相談などあれば対応できる体制づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりのなかで声掛けや会話をし、意思表示が可能な方は希望を伺い、本人の意思に添い対応している。意志表示が困難な方は行動や表情を観察し、思いや意向の把握に努めている。	入居者との普段の関わりから思いを収集し、把握困難な入居者の意向を推し量りプランに反映させている。職員の気づきやケアの要点も個々のプランに活かされ、入居者のホーム生活の基本となっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、入居以前に利用していたサービス提供事業所や医療機関からの情報を踏まえ、本人の状態の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の健康状態や個々が有する機能を総合的に把握し、入居者本人のペースで生活できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書を作成するにあたり、本人の意向聞き取りはもちろんのこと、家族にアンケートを送付することで生活に対する意向を聞きだしており、介護計画書に反映させている。また、会議等で職員から多くのアイデアや気づきなどもあり積極的に取り入れている。	入居者の暮らし方の希望は言葉のままにプランにのせられ、計画作成者と担当職員が中心となり最低でも半年に一回のモニタリングにより見直し、現状に即したプランとしている。年々入居者の身体状況が心配される中、母体医療機関と連携し、進行を最小限としながら本人の外出や暮らし方の希望を盛り込んだ内容は、わかりやすい表現で家族へ説明され了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活を時系列を基本に作成している。また、サービス計画書のサービス内容に関することについても記入しており、サービス計画書のモニタリングや見直しに活かしている。各種申し送りノートも活用し、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各種制度の申請、訪問調査の立会いや後見人との連携、入院の際には面会や洗濯の代行、医療機関への送迎や付き添いなど柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア、地元保育園や団体の慰問や民生委員との交流、地区の敬老会、どんどやなど、地域行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回の訪問診療を受けており、主治医は、同グループの法人医療機関であり良好な関係、連携が築けている。	入居前から協力医がかかりつけ医だった方もあり、現在は家族の意向により全員が協力医療機関からの訪問診療を受けている。対応は看護師が担当し近況を伝え、結果は職員・家族へ共有されている。また、週一回の訪問歯科診療も行われ、日々の食後の歯磨きなど口腔ケアに配慮しており、家族の中には歯磨き粉を持参される方もおられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定や入浴時の身体確認、日々の状態観察など日頃関わっているスタッフの気づきを看護師へ報告し対応している。必要に応じ、看護師より主治医へ連絡、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供、また、入院中の状態把握の為に定期的に事業所スタッフが面会を行い、病棟看護師より随時情報を得るなどしながら関係づくりを図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の助言を得ながら、今現在の状態をふまえ終末期の支援方法や急変時の医療について、ご家族と話し合いを行い意思確認を行っている。関係医療機関、併設施設など法人全体で支援する体制を築いている。	重度化した場合の指針は、家族の立場にたって作成されており、入居時に説明を行う他、必要に応じ随時話し合いの機会を持つこととしている。同意書は本人・家族の意向など全てが揃った時に交わしている。また、法人の医療機関や併設施設との連携により本人・家族が安心して日々を過ごせる体制を整えている。職員も急変時の対応についてマニュアルを確認し研修会に参加している。	看取りの有無に関わらず、今後も入居者の最終の場面に関わる場として、変わらぬ最良の支援が継続されることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	既往歴や現在の状況からあらかじめ予測できる入居者に関しては、マニュアルを作成しているものもあり、スムーズな対応ができるよう努めている。急変時に備え定期的に勉強会を実施することで、実践力が身につくように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練の実施や、運営推進会議などでグループホームの特性や入居者の状況など理解してもらっている。また、福祉避難所の協定を締結し、災害時に地域の要援護者受け入れなど協力関係を築いている。	今年度は夜間を想定した自主訓練や消防署の参加を得、洗濯場を火元とした特養と合同火災訓練が実施されている。非常時訓練では非常食の入れ替えに際し、備蓄している非常食が入居者に適しているか試食するなど、徹底した確認のもと進められている。それぞれの居室は掃き出し窓となっており有事の際の避難に配慮されている。また、推進会議の中でも入居者の状況や災害対策について報告を行い、市との災害時における覚書を交わすなどホームにできる貢献に努めることとしている。	担当者による安全チェックシートによる確認やリストによる非常食の準備など安全管理に努めており、今後は地域の参加や訓練前の告知などにも期待したい。また、地震など自然災害についても机上訓練を通し、心構えや風化させない機会としていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人として尊重し何事にも了承を得ることを基本としている。排泄や入浴の際もプライドを傷つけないように配慮しさりげない声掛け、ケアを心がけている。	入居者との日頃の関わりが重要であり、その方の表情や様子に応じた支援と共に、職員間で常に情報を共有して行くよう管理者より指導や助言が行われている。入居者の心のケアを大切に、控えめの方には特に配慮をし、思いや意向を察するようにしている。また、ホームは両ユニット間の連携も図られ、双方が協力して同性介助に対応し、個人情報や守秘義務については研修や業務の中で徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で今までの生活や関わってきた仕事などの話を聞き、活動の場面を設け自己決定されるように働きかけ支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的にはその日の体調や様子を見ながら、入居者本人の希望に配慮しながら過ごしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洗顔、整髪とご自身で洋服を選んでいただいたり、化粧をする習慣がある方については支援したりしている。かかりつけの美容室がある方は、ご家族の協力のもと継続して通っていただいたり毎月、近所の理容店より来て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事や誕生会では本人希望の献立を用意し楽しんでいただいている。毎食の準備、盛り付け、後片付け、テーブル・お盆吹き等、入居者それぞれの活動を活かせる範囲で楽しみながら出来るように支援している。	日々の献立は法人栄養士の作成したものを使用しているが、行事や誕生会食には入居者の希望が反映されている。入居者は台ふきやグリーンピースの皮むきなどの下準備の他、先人の知恵を活かした、地元ならではの樽に高菜を漬け込んだり、干し柿作り、収穫した梅はゼリーや梅干し、しそご飯に活用するなど、一連の食への関わりが入居者の知恵と職員のアイデアで展開されている。手作りのパン・イチゴジャムでおやつを楽しんだり、季節の野菜をふんだんに使った団子汁では、入居者より「味がちょうどいい！」と、笑顔で評価の言葉を寄せられたようである。	入居者は自分の湯呑や食器・箸を使い、職員と一緒に昔話や得意な作業など会話をしながら食事時間を楽しんでいる。リビング食堂に置かれたメニューボードには、果物の種類や何の和え物かななどを記すことで、更に食事の会話にも繋がると思われる。また、見守りや細やかな介助が行われており、エプロンの使用方法については検討されることを望みたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の体調や生活パターンを考慮し、食べる形態や量にも配慮している。体重や尿量にも気を配りながら食べ物や水分の摂取タイミング等考え時間をずらす、主食をパンにしてみる、水分を甘くしてみるなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し一人ひとりの口腔内に応じた歯ブラシなど使用している。自力での口腔ケアが不十分な方は、スタッフが確認し、清潔保持に努めている。又、訪問歯科診療時に口腔内の清掃について指導・助言を受け適切な口腔ケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツを使用しない支援を基本としており、その人に合った排泄時間の把握や、排泄のサインを見逃さないようにトイレの声掛け、誘導を行っている。	日中はトイレでの排泄を基本とし、自立で行かれる方も多く、見守りを強化しトイレを清潔に保ち気持ちよく使用できるように努めている。また、トイレ内に排泄用品を保管する場合はクロスをかけるなどプライバシーにも配慮している。脚力が低下されてきた方へは安全面から夜間のみポータブルトイレとしたり、「外出時は心配だから布下着ではなく紙パンツにしたい」など、個々の状況や自尊心、希望にも配慮しながらその方に応じた最良の支援を検討し取り組んでいる。排泄用品は全てホーム負担で取り扱われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や水分摂取に努め、腹部マッサージや運動を促し、なるべく下剤にたよらないように調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者個々に入浴時間や同性介助など、その日の体調等伺いながら支援している。入浴拒否が多い方は、入浴前にその人にあわせた声掛けや環境作りを行っている。パラ湯、ゆず湯など季節感を楽しんだり、湯船で歌を一緒に歌うなど楽しめる入浴に努めている。	それぞれのユニットは個浴や機械浴が設けられ、入居者の身体状況などに配慮しながら利用されている。時間や同性介助、拒否の方への支援をはじめ、衣類を事前に準備される方など一人ひとりに応じた対応を全職員が共有している。脱衣所には楽しみに繋がるよう、入居者の笑顔の写真が掲示されホッと和める工夫である。季節のゆずはジャムやジュースで食として楽しむ他、冬至のゆず風呂では、「香りもいいし、芯から温もった！」と好評だったようである。また、パラ風呂を取り入れた際も、いつもと違う入浴に大変喜ばれたと語る職員の笑顔が印象的であった。	浴室や脱衣所は清潔に管理されており、今後はスペースも限られているが、脱衣所の掃除用品の収納位置を検討することで、更にスッキリとした空間になると思われる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の照明の明暗や室温を入居者個々の希望や状態に合わせて調整したり、睡眠を妨げる要因を取り除くことで安眠できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が服用している薬の作用、副作用を理解できるように作用説明文書を表示し、頓服薬の一覧表も作成している。内服変更時はスタッフ全員に周知状態の記録を行っている。また、薬に関する相談が随時できるように主治医及び調剤薬局との連携にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、また、月の行事や季節ごとの催し物を計画し、生きがいと満足感のある生活が送れるように、家族の協力も得ながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望や季節を感じることを目的とした行事を計画や、昔行った思い出の場所など話があった場合にも計画を立てている。また、家族への働きかけを行うことで外出に繋がっている。近隣への散歩は日常的に行っている。	阿蘇の山や田畑を眺めながらの日常的な外出に加え、地域の人々と「どんどこや」に参加したり、地元神社への参拝の他、家族にも協力を依頼し帰省をはじめとした外出が支援されている。ぶどう刈りや法人代表者の庭先に散歩を兼ねた梅ちぎりの収穫後は、入居者の指導のもと梅干し作りも行われている。また、中秋の名月には庭先で月見も楽しむなど季節感を味わう取り組みが設けられていることが聞き取りや数多くの記録写真からも確認された。写真は広報誌の中で「写真お譲りいたします」とし、USBやCDを持参すれば複写することが記されており、家族も一緒に入居者の毎日を共有してもらいたいという思いが伝わってくる。	入居者からワラビ刈りの要望が出されており、職員の聞き取りからも絶好の場所に案内し、入居者に喜んでほしいとする、真摯な思いが伝わってきた。今後も職員の変わらぬ優しさやアイデアで外出の機会が展開されていく事を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望に応じて自己管理が出来るように、貴重品入れに鍵を付けたり、おこずかい帳をつけたりして工夫、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リビングの電話はいつでも使えるようしており、内容によっては自室でゆっくり会話できるよう配慮している。知人からの絵手紙や年賀状等のやり取りの支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広く明るいリビングには花などを飾ることで季節感を出し、落ち着いてくつろげる雰囲気、環境づくりに努めている。	出入り口の掲示コーナーやリビングなどには季節に応じた入居者の書や壁面を心掛けています。毎食後にはその時の状態に配慮しながら職員が掃除を行い、いつでも気持ちよく集えるリビング・食堂を心掛けています。職員の語りかけや関わりは自然で温かく、ソファや椅子、それぞれの座り慣れた場所でゆっくりと時には活気ある会話のやりとりの場面が、訪れる者も元気になれるような空間であった。	共用空間は室温管理・掃除が行き届いている。今後は掲示物と共に、散歩中に見つけた自然の草花をテーブルや洗面所などに飾ることでより季節感のある空間に心とむと思われる。取り組みに期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	常に人間関係や相性などに考慮した環境づくりを行っており、テレビ鑑賞、作品作りなど思い思いに過ごせる空間となるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方が自分の住まいだと思えるよう、また、ご家族も一緒にくつろげるように自宅で使用されていた家具類を持ち込まれ、好きな絵やポスター、家族の写真や手紙など飾っている。	入居者が寛いで過ごせる部屋としてはもちろん、家族や知人が訪れても、ゆっくり談笑したり、安心して委ねることができるホーム・居室環境に努めている。入り口に家族の協力も得ながら下げられた暖簾は、柄や生地も異なり個々の部屋である事を表している。馴染みの家具、家族や思い出の写真、観葉植物など持ち込みは様々であり、中には読みなれた新聞をとられ、居室で特に「占いコーナー」を楽しみに目を通される方もおられるようである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりを設置し車椅子、歩行器移動にも対応できる広い作りとなっており、自立と安全性に配慮した環境である。		